

サンコーポ勝田台自治会のご紹介

1 所在地 千葉県八千代市勝田台 1-15

京成電車勝田台駅南口から道路の両側に6棟のマンション、1階は商店テナント

2 構成 420世帯、740名

3 組織 会長、事務局、事業部、防犯防災部、クリーン推進部

4 月例会議、行事など 運営委員会（会長、各部長、各棟代表委員、24名）

サンクラブ（同好会、行事）打合せ、「サンコーポ便り」配布、第3日曜日は歩道清掃日

5 自治会活動開始時期 1979年団体登録、約40年活動継続

有り難いことに先日の受賞が八千代市の広報「やちよ」2018年12月号で、紹介されました。清掃が活動の原点でしたので、その記事、写真を僭越ながら下記の添付させていただきます。

県内初の「環境大臣賞受賞」サンコーポ勝田台自治会 3R活動を通じて居住者交流も

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰で、全国から推薦の87件から、サンコーポ勝田台自治会が県内初の環境大臣賞を受賞しました。

これは3R推進協議会が、ごみの減量に率先して取り組み、継続的な活動を通じて実績を挙げた個人やグループなどを表彰するものです。

サンコーポ勝田台は、京成勝田台駅前にある6棟のマンションで、1階には商店街のお店が入っています。自治会は約40年前に結成し、多くの人々が利用する勝田台の顔である駅前をきれいにしたいという思いから、クリーン推進部をつくりました。

それから始めたのが月1回の清掃。以前は歩道にある花壇へびんや缶などが多く捨てられていましたが、地道な活動で次第に量が減りました。毎月発行している自治会だよりでは、ごみの分別や出し方を紹介。日常の生活でできる、マイバックの利用や運動の時にはペットボトルに水道水を入れて持参することなども勧めて



◀ 毎回15人程度が参加の月一回のごみ拾い

います。大所帯の集合住宅でこうした活動を理解してもらう難しさはありますが、3Rを行うことが健康、家計や居住者交流にも関係していることを感じられるように工夫して、積極的に取り組んだことが評価されました。

「ごみを減量するには、みんなの意識を変えていくことが一番大事です」と語るクリーン推進部長の岡栄一さん。今後は、一人住まいの高齢者の見守りや、手助けも活動に取り入れていきたいと考えています。

1 活動テーマ名

「3Rで可燃ごみの重量を減らし、かつ古紙類を選別工夫して資源ごみに！」

(1) 活動の概要

どのような活動をしているか？

下記の3Rを軸に活動しています。

① 「リデュース」

- ・無用、無駄になる物は買わない、断る、貰わない。計画的に必要な量、物だけ買い、食べ切る、使い切る。マイバッグの持参、梱包なしで買い物。
- ・ごみ袋に入れる前によく水切りをする。
- ・使い捨て品より繰り返し使用可能品を買う。

② 「リユース」

- ・耐久使用品は点検、手入れ、修理で長持ちさせる。
- ・運動時の水分補給はペットボトルに水道の水を入れて持参、出来るだけペットボトルに入っている微量風味付き水、スポーツ飲料は買わない。これらには数10カロリーの含有していることもあり、水道水をペットボトルに入れて持参することを推奨している。市の健康づくり課の講師も運動を始める時に毎回、数10カロリーの含有に注意するようと言われる。
- ・不要となった耐久使用品を中古品として出来れば引き取って貰う。
- ・耐久使用品が必要な場合は、一応中古品でどうか？を検討し、気に入ったのが見つかったら積極的に活用する。

③ 「リサイクル」

- ・ごみ袋に入れる前に、資源ごみになる物は手間をかけても資源ごみとして出す。
- ・基準を厳守しようとする、手間がかかりなかなか資源ごみとしての回収率が上がらない。次の工程の人がどんなことが困るか？分かるように示して、選別方法を工夫し関係先と相談し進める。

(2) 取り組みの特長

市のごみ減量目標からごみの分別、出し方、各家庭のごみ減量の方法などについて、サンコーポ便りを配布、資料掲示、運営委員会での報告、日常の対話を通じて、マンション居住者に関心を持って貰い協力して貰うように努めている。

市のごみ減量の目標達成のために、単に手間をかけるのではなく、自分の生活の経費、健康、居住者間交流にも役立って来るとの考え方を展開し、関心を持って貰った上での協力を呼び掛けている。

居住者間の交流では、②リユース活動で、身近にプロの存在の発見などもあり、助かります。3R活動で一人住まいの高齢者の見守りを取り上げていますが、まだ建前だけと言われても取り下げることが出来ません。世話上手、世話され上手になって貰うのが一番と考えて続けて行きます。

3R を軸に活動しているが、市のごみ発生減少の目標達成のために取り組もうと協力を頼むだけでは、特にマンション生活では、手間がかかる、自分だけがやっても？などあり、なかなか盛り上がらない。自分の生活にも少なからず関係があると感じて貰うには、どう進めるのが効果的か？3R を組み合わせて考えれば、日常生活で、自分の健康、家計、居住者間交流に関係していると感じて貰えると考えて対応している

取り組みのポイントとしては、①リデュースと②リユースは、面白い情報、ヒントを出来るだけ多く提供する。日常の対話、話題、口コミで拡がり効果が効果的。対話が増え、付き合いが広がる。

例を挙げると

- ・計画的買い物から食べ切り、使い切りの工夫は家計へ直結。
- ・①リデュースでダイエットに挑戦。たまには体重計に、ごみ袋を持って乗ってみる。
- ・リンゴは皮を剥かずに食べる方が栄養になる。
- ・余剰品、不要品を譲り合う付き合い作り、情報交換で付き合いが広がる。
- ・運動時の水分補給はペットボトルに水道の水を入れて持参。出来るだけペットボトルに入っている微量風味付き水、スポーツ飲料は買わない。これらには数 10 カロリーを含有する商品もあり、減量ダイエット効果が出ないことがあると市の健康づくり課の先生も毎回言われている。

3R の活動をすることが、マンション居住者個人のメリットに繋がっているとの考え方を理解して貰えるかどうか？がポイントです。

- ・③リサイクルに関しては、①リデュース、②リユースと異なり選別の手間がかかる。ポリ食品容器のように原料としてリサイクルされる物は汚れなどがなければ、指定の場所そのまま出せばいいので、ごみの選別と出し方が間違っていなければ問題はない。
- ・古紙類の場合は後工程で不具合が起きることがあるので、細かく受け入れ基準が設定されている。紙製品を可燃ごみにせず資源ごみにしようとする、基準を守るためには、手間がかかるので、面倒な判断や手間を避けて可燃ごみにしてしまい勝ちで、紙資源としての回収率が上がりづらいのが問題です。
- ・次の工程の人がどんなことで困るか？分かるように示して、選別方法を工夫する。基準を緩和出来る可能性があれば、関係先と相談し回収率の向上を図っている。
- ・ごみの出し方について「家庭ごみの分け方、出し方」各家庭に配布したり、仮置き場に外国語も加えて掲示したりして、かなり改善されたが、まだ時には指定ごみ袋を入れなかったり、可燃ごみにびんが入っていたりすることがある。
- ・一戸建ての場合ごみ出しの管理は住民自らが当番制などで行って、交流がありお互いに顔見知り、誰がどんな出し方をしているか分かり、新入居者へのルールの周知も行われている。
- ・マンションの場合は、屋内にごみの仮置き場が有ることが多く、何時でもごみを出せるので極めて便利である反面、ごみ出し場で顔を合わせる事が殆どない。仮置き場の掃除、管理、屋外搬出などはビル管理会社が担当している。
 - ・居住者間で、交流が少なく誰がどんなごみの出し方をしているか？は分からない。過去に袋に部屋番号か名前を書くと決めたことがあったが、別の問題もあり中止し現在に至っている。収集車に引き取って貰えない出し方をされると、ビル管理会社従業員が選別し直しをせざるを得ない。つづく

- ・ このような状況が続けば、人件費が増え、やがて個人が毎月支払っている管理費の見直しに繋がるので、やがて家計に影響することになる。
- ・ 自分がルールを守るだけでなく他の居住者にも守って貰う必要があることを認識して貰い、慣れないで困っている人を見かけたら積極的に話しかけ理解を拡げる。
- ・ 現状の利便性を残しながら次工程に迷惑をかけないごみの分け方、出し方をより徹底させたい。

(4) 3R 活動の効果と今後の課題

日常生活の中に 3R 活動を取り込むことにより、健康、家計、居住者間交流に効果があることを提案、理解を拡げた。一方、高齢一人住まい者が増えている中で、見守り、手助けが必須となり、どう進めるのが適切か？考慮しながら進めざるを得ない。

マンション生活をされて居る方には、近所付き合いが煩わしいと思われる方も少なくない。どの程度の居住者間の交流が適切なのか？考え迷いながら 3R 活動を進めて行くことになると思っています。